

移動式簡易温湿度制御乾燥装置による乾燥法

福島県たばこ試験場

平成17年度福島県たばこ試験場試験研究成績書

1 部門名 特用作物－タバコ－収穫・乾燥・調製
分類コード 06－01－24000000

2 担当者 吉田辰雄

3 要 旨

(1) 粗水切り期間は主に色沢が乾燥ハウス内環境に影響を受け、黄褐変期間では熟度、色沢、組織が影響を受ける。粗水切り期間の管理法は平均温度を下げ、適温頻度率を上げ、適湿頻度率を下げる。黄褐変期間は温度変異を大きくし、適温頻度率及び適湿頻度率を下げる。

(2) 黄褐変期の温度乖離度とAタイプ千分比とは正の相関が高く、70%以下の湿度乖離度で、Aタイプ千分比の分散が大きく、70%以下の湿度管理が課題である。

(3) 中骨乾固期の温度乖離度とAタイプ千分比は正の相関が高いが、乖離度値が0～4℃と小さいことから温度管理の影響は小さいと考えられる。湿度乖離度とは負の相関が高かったことから湿度乖離度を小さくし、湿度変異(変異係数)を小さくすることによりAタイプ千分比が向上すると考えられる。

(4) 品質は、①簡易乾燥装置では熟度、色沢、組織が慣行乾燥より劣るため、Aタイプ千分比が低下する。②幹干しでの密吊り(45本/m²)乾燥では、熟度が慣行吊り(32本/m²)より劣るが、色沢、組織、葉肉では差が無く、連干し(中葉4回葉)では密吊り(254枚/m²)と慣行吊り(127枚/m²)との差は小さかった。このことから、幹干し及び連干しともm²当たりの吊り込み数を限界までとしても品質の低下は小さいと考えられる。

4 その他の資料など

なし